調査報告

専門高校生の進路希望と就職の実態

－就職先の地域と仕事に注目して－

阿　部　　誠

１．調査の目的と方法

この10年余りの間、若者の就業が大きな議論になってきたのにあわせて、彼らの就業問題についての調査研究が、数多く積み重ねられてきた[1)]。そうしたなかで、筆者が参加する研究グループは、対象を地方圏の若者に絞って就業と生活についていくつかの調査研究に取り組んできた。こうした一連の調査研究のなかで、筆者は、地方圏の若者がどのような就業行動をとっているのか、とくに地域的な移動に焦点をあて、若者の労働市場圏の広がりという観点から調査を進めてきた。これは、地域間で雇用格差が広がっているなかで、若者がどの程度地域的に移動しているのか、あるいは地域にとどまっているか、その実態を明らかにするとともに、それが若者のキャリアにどのように影響するのかを考えるためである。

こうした問題意識にたって、大分県内のＫ商業高校とＪ工業高校の卒業生の就業変化に関する聞き取り調査を行った（阿部2009、阿部・石井・中澤2009）。この調査では、地域的な移動をせずに地元に残った若者の就業動向についてケーススタディとして分析することができた。しかし、地域から出て地理的に移動した若者の就業動向については把握できていない。とくに、地域的な移動を希望する者と地元を希望する者の違い、それによる就業先・キャリアの差異なども明らかになっていない。地元を離れた者を含めて専門高校卒業生全体の就業行動を把握することは、調査実施上の困難が大きい。

こうした調査上の困難を乗り越える代替的な方法として、専門高校生の就業先の地域や仕事などに関する意識を把握するために、在学生について「進路希望」と実際の「進路」に関する調査を実施することにした。本調査は、前回の調査と同じ大分県のＫ商業高校とＪ工業高校２校の在学生を対象にして、２年次における進路希望と３年の卒業直前の時点での進路内定状況について自記入によるアンケート方式で調査を実施した[2)]。ここでは、進路とその決定時期、就業先の地域、仕事内容、進路決定にあたって重視した点などを中心にしつつ、就業意識なども調査している。

高校生や高卒者にたいする進路希望や就業意識に関する調査は、進路指導の観点などからし

---

1)　若者の就業問題に関する調査にもとづく研究では、労働政策研究・研修機構が行ったものが多数ある。その研究成果は、同機構のホームページ（http://www.jil.go.jp/）でみることができる。また、同機構の調査研究の中心にいる小杉（2010）の研究もある。

2)　本調査は、石井まこと（大分大学）、中澤高志（明治大学）と筆者の共同調査であり、調査票の作成、集計等は、石井を中心にしつつ共同で行った。ただし、本稿は、筆者の責任において執筆されている。

ばしば行われてきたが、若者の就業行動という観点での調査研究は必ずしも多くはない。とくに地方圏の高校生に焦点をあてて彼らの就業観について調査研究したものとして浅川（2008、2009）の研究がある。浅川の研究は示唆に富むものの、そこでは進路決定や進路指導との関係で就業意識が問題とされており、彼らの労働市場の地域的広がりに焦点をあてた本調査とは目的が異なる。これまでの若年就業に関する調査でも、地方圏の高校生を対象にして、就職先の産業や地域的な移動を調査したものは少ない。小杉（2010）の補論「高卒就職の変化と課題」は、調査にもとづく論稿ではないが、本研究と同様の問題関心から高卒就職者の就業行動を論じており、彼らの地域間移動についても触れているが、地域にとどまる若者のキャリアを必ずしも明らかにしているとはいえない。

若者の就業動向や意識に関する大規模な量的調査としては３回にわたって行われた「若者のワークスタイル調査」[3)]があるが、この調査では、対象を「若者」ととらえており、高卒就職者を対象にしているわけではない。また、この調査は、就業動向と就業意識に関するものであって、若者の労働市場という観点から産業・職種や地域などについて関心を寄せているわけではない。そうした点では、本調査とは目的が異なっている。

本調査の目的は、地方圏の若者が、就業する際に就業先をどのように決めているのか、とくに就業先の地域に焦点をあてて分析することである。ここでは、若者が地域的な移動を希望しているかどうかに関心があり、どの地域に就業したかという点とともに、就職を決めるにあたってどの程度地域を重視したかを明らかにしたいと考えている。本調査は、若者が就業先を決めるにあたって、「希望」と「現実」の間に一定の距離があると考え、大分県内の２つの専門高校の在学生について２年次の12月と３年次の１月に調査を行っており、２年次の進路希望と卒業直前の進路が決まった時点での進路との間の変化をみることができるという点に特徴がある。

本調査は、Ｋ商業高校とＪ工業高校の協力を得て、2009年12月に２年生全員にたいして教室で調査票を配布し、自記入の上当日回収した。この調査対象者と同じ生徒が３年生になっている2011年１月に同じ方法で調査票を配布、回収して行った。その結果、回収できた調査票は、表１及び表２の通りである。回答者の性別構成は、表３及び表４の通りであり、K商業高校は女子の比率が高い一方、Ｊ工業高校は、男子が圧倒的比率を占めている。なお、回答者のプロファイルとして、アルバイト経験の有無を表５及び表６で示した。商業高校で、工業高校でも、２年次でアルバイト経験がある者は23%程度であるが、３年次になるとやや増える。それでも

表１　Ｋ商業高校の所属学科別の回答者数

	2009年12月調査		2011年１月調査	
	人	比率（%）	人	比率（%）
商業科	118	43.2	114	43.0
国際経済科	78	28.6	77	29.1
情報処理科	77	28.2	73	27.5
不明	0	0	1	0.4
計	273	100.0	265	100.0

表２　Ｊ工業高校の所属学科別の回答者数

	2009年12月調査		2011年１月調査	
	人	比率（%）	人	比率（%）
機械科	78	41.1	72	38.5
電気電子科	36	18.9	38	20.3
土木科	38	20.0	38	20.3
材料技術科	38	20.0	39	20.9
不明	0	0.0	0	0.0
計	190	100.0	187	100.0

3）　第１回目が2001年に実施され、その後、2005年、2011年に実施されている。このうち、第３回目の調査結果については、労働政策研究・研修機構（2012）を参照。また、地方圏の若者の就業動向や就業意識について調査した研究としては、労働政策研究・研修機構（2009）がある。

表３　Ｋ商業高校回答者の男女別構成

	2009年12月調査		2011年１月調査	
	人	比率（%）	人	比率（%）
男	69	25.3	66	24.9
女	204	74.7	191	72.1
不明	0	0.0	8	3.0
計	273	100.0	265	100.0

表４　Ｊ工業高校回答者の男女別構成

	2009年12月調査		2011年１月調査	
	人	比率（%）	人	比率（%）
男	166	87.4	160	85.6
女	20	10.5	21	11.2
不明	4	2.1	6	3.2
計	190	100.0	187	100.0

表５　Ｋ商業高校回答者のアルバイト経験の有無

	2009年12月調査		2011年１月調査	
	人	比率（%）	人	比率（%）
ある	63	23.1	79	29.8
ない	203	74.4	176	66.4
不明	7	2.6	10	3.8
計	273	100.0	265	100.0

表６　Ｊ工業高校回答者のアルバイト経験の有無

	2009年12月調査		2011年１月調査	
	人	比率（%）	人	比率（%）
ある	45	23.7	62	33.2
ない	145	76.3	121	64.7
不明	0	0.0	4	2.1
計	190	100.0	187	100.0

３割程度にとどまっている。

本稿は、このアンケート調査の結果にもとづいて高校生の進路と就業意識を分析した調査報告である。

２．Ｋ商業高校生の進路希望と実際の進路

⑴　２年次における進路希望と就業意識

＜進路の希望＞

２年生の３学期の調査時点で卒業後の進路を決めているかを聞いたところ、表７が示すように、進路を「ほぼ決めている」が24.9%、「だいたいは決めている」が50.5%で、両者をあわせると75.4%を占めている。２年生の時点ですでに進路が決まっている者が多いことがわかる。進路が決まっている者のうち、進路を決めた時期をみると、表８の通り、入学する時点で決めていた者が40.3%とかなり高い比率を占める。つまり、高校の選択と高校卒業後の進路は一体的に決めている者が多いといえる。ただ、２年になって進路を決めた者も35.9%おり、高校における進路指導の重要性も示している。

表７　卒業後の進路を決めているか

	人	比率（%）
ほぼ決めている	68	24.9
だいたいは決めている	138	50.5
まだ決めていない	65	23.8
全然考えていない	2	0.7
不明	0	0.0
計	273	100.0

表８　希望進路を決めた時期

	人	比率（%）
高校に入学する前に	83	40.3
高校１年の時	44	21.4
高校２年の時	74	35.9
不明	5	2.4
計	206	100.0

希望する進路としては、表９のように、進学希望が41.7%とかなり高い一方、就職は25.7%であるが、これに「進学希望をもちつつも就職の予定である」の21.8%を加えると就職志向は47.5%となる。こうみると、就職と進学とはほぼ半々とみることができるが、全国の統計では、商業科の卒業生の52.4%が進学しているのにたいして[4]、同校の２年次ではやや就職希望が多いということができる。

表10によれば、進路の決定で大きな影響をもったのは「自分の考え」と回答している者が76.2％を占めており、少なくとも自分では自分自身で決めたと考えていることがわかる。そのほか「親や親戚の考え」を重視した者が18.4％いるが、それ以外の人の意見はほとんど影響していない。少なくともこの時点では、「先生の考え」を重視したのは1.5％に過ぎない。

表９　希望する進路

	人	比率（%）
是非、就職したい	53	25.7
進学の思いもあるが、今はとりあえず就職するつもりである	45	21.8
是非、大学・短大・専門学校等へ進学したい	86	41.7
就職も考えているが、今はとりあえず進学するつもりである	20	9.7
不明	2	1.0
計	206	100.0

表10　希望進路を決めるうえで重視した意見

	人	比率（%）
自分の考え	157	76.2
友人・先輩の考え	4	1.9
親・親戚の考え	38	18.4
兄弟・姉妹の考え	0	0.0
先生の考え	3	1.5
その他	2	1.0
不明	2	1.0
計	206	100.0

＜希望する職種＞

表11では、対象者全員に将来就きたい仕事が決まっているかを聞いたのにたいして、「はっきり決めている」は9.2%であるが、「およそ決めている」が50.5％と高い比率を示している。両者をあわせて6割の生徒は、将来の仕事について一定のイメージをもっていることになる。その一方「あまり考えていない」が30.4%、「まったく考えていない」は6.2％で、約３分の１は仕事がイメージできていないことがわかる。

表12は、将来就きたい仕事を決めていると回答した者に職種を複数回答で聞いた結果である。ここでは、事務が36.2％、販売・接客系の仕事が25.2％、サービス系の仕事が22.1％、公務員が16.6％となっている。女子が多いことも影響して、事務や販売が大きな比率を占めている。その反面、理美容、介護、コンピュータ・情報など専門的な職種・技能を必要とする仕事などを希望する者は比較的に少数にとどまる。金融系の仕事といった具体性のある仕事をあげる者も少ない。さらに、製造・運輸などの現業職を考えている者はほとんどみられない。事務や小売店での販売くらいしか仕事のイメージがない

表11　将来就きたい仕事が決まっているか

	人	比率（%）
はっきりと決めている	25	9.2
おおよそ決めている	138	50.5
あまり考えていない	83	30.4
全く考えていない	17	6.2
不明	10	3.7
計	273	100.0

表12　希望する仕事（職種）（複数回答）

	人	比率（%）
工場の保全・設計系の仕事	0	0.0
工場の組立系の仕事	1	0.6
コンピュータ・情報系の仕事	15	9.2
土木・建設系の仕事	1	0.6
自動車整備の仕事	4	2.5
店員等の販売・接客系の仕事	41	25.2
銀行等の金融系の仕事	18	11.0
運転手等の運輸系の仕事	2	1.2
ファッション・デザイン系の仕事	19	11.7
理容・美容系の仕事	18	11.0
介護・福祉系の仕事	18	11.0
サービス系の仕事	36	22.1
営業・セールス系の仕事	14	8.6
公務員	27	16.6
事務の仕事	59	36.2
その他	27	16.6
不明	8	4.9
回答者数	163	100.0

4）　文科省「2011年度学校基本調査」における商業科卒業者の大学等進学率及び専修学校進学率を合計したもの。

というべきであろう。

希望する進路を決めるにあたって参考になったのは、表13の通り、「親や親戚の意見」が34.4％と相対的に高い比率を示しているが、マスメディアも27.6％と高い。同時に、高校の授業が25.8％、高校の進路指導が20.2％、先生の意見11.0％などとなっており、複数回答のため同一のグループが重複して回答している可能性はあるものの、キャリア教育を含めて高校教育が少なくない影響力を示していることも明らかになる。

表13　希望進路を決めるうえで参考にしたこと（複数回答）

	人	比率（%）
高校で学んでいる授業	42	25.8
高校の進路指導	33	20.2
インターンシップ	4	2.5
ＴＶ・新聞等の情報	45	27.6
卒業生の就職状況	9	5.5
友人・先輩の意見	33	20.2
親・親戚の意見	56	34.4
兄弟・姉妹の意見	12	7.4
先生の意見	18	11.0
その他	24	14.7
不明	12	7.4
回答者数	163	100.0

＜就職にあたって重視すること＞

就職を考える上で何が重視されているのか、全員に質問したところ、回答は表14の通りである。「仕事内容に興味がある」と回答したのは83.9％ときわめて高い比率を示している。堅実な高校生の考え方を示すとともに、おそらくは高校のキャリア教育の成果が反映しているものと考えられる。一方、給与を重視することは予想されるところであるが、実際にも63.0％とかなり高い比率を示しており、給与はやはり重要であることがわかる。さらに、「会社の将来性」が35.2％を占め、若者の安定志向を示すが、その一方では、「高校で学んだことが役立ちそう」という回答が25.3％、「仕事を通じて能力が向上すること」が20.9％と比較的に高いことをみると、今日の高校生の真面目さやキャリア教育の成果を感じさせる。それにたいして、「知名度の高さ」8.1％、「卒業生がいる」の3.3％、「TV・新聞等の情報」が2.9％などいう数値は、世間の評価などに流されない高校生の堅実さをよく示している。本稿が注目する勤務地については、これを重視するという回答が28.6％、「実家から通える」というのが12.5％で、勤務する地域を重視する者がこの時点ではさほど多くないことが注目される。

表14　就職するうえで重視すること（複数回答）

	人	比率（%）
仕事の内容に興味がある	229	83.9
仕事を通じて能力が向上すること	57	20.9
知名度の高さ	22	8.1
ＴＶ・新聞等の情報	8	2.9
寮や体育館・ジム等施設が充実	26	9.5
実家から通える	34	12.5
勤務地	78	28.6
給料	172	63.0
勤務時間が短く、休日も多い	38	13.9
会社の将来性	96	35.2
高校で学んだことが役にたちそう	69	25.3
会社が実力主義	17	6.2
卒業生がいる	9	3.3
友人の高い評価	5	1.8
親・親戚の勧め	30	11.0
兄弟・姉妹の勧め	7	2.6
先生の勧め	12	4.4
その他	10	3.7
不明	6	2.2
回答者数	273	100.0

それでは「どこで働くのか」を全員に聞いたところ、表15の通り、「大分県内もしくは大分県から近いところ」が31.1％、「家から通える

表15　どこで働くことを希望しているか

	人	比率（%）
全国どこでもいい	57	20.9
東京・東海・関西等の都市部がいい	33	12.1
九州・中四国内ならばどこでもいい	63	23.1
大分県内もしくは大分県に近いところがいい	85	31.1
家から通えるところがいい	32	11.7
不明	3	1.1
計	273	100.0

ところ」が11.7％で４割は地元を志向しているが明らかになる。そのほか九州・中四国といった近県が23.1％で一定比率を示しているものの、「全国どこでもいい」という回答も20.9％を占めている。この結果をみると調査対象となった高校生が、必ずしも地元志向ばかりということはできない。ただし、「東京・東海・関西等の都市部がいい」を選ぶ者が12.1％と少ないことは、今日の若者の考え方を示しているように思える。

一方、この質問で大分県内とその周辺や自宅から通勤できるところを選択した、いわば地元就職の希望者について、その理由を聞くと、表16の示すように、「知らない土地で生活するのは不安だから」が30.8％、「地元が好きだから」が11.1％、「住んでいるところに不便がない」が10.3％と回答しているのにたいして、「地域の仲間との関係」などは6.0％にすぎず、地元就職への明確な理由があるというよりも、漠然と地元を志向している者が多いことがわかる。もっとも「自宅から通うとお金がかからない」と回答した者が21.4％と比較的高い比率を示す。これは具体的であるが、独立志向が弱い現代若者の考えを示しているように思える。なお、「親が地元就職を強く進めるから」という回答は6.8％と予想外に少なかった。

表16　地元での就業を希望する理由

	人	比率（%）
知らない土地で生活するのは不安だから	36	30.8
家族と離ればなれになるから	11	9.4
親が地元就職を強く勧めるから	8	6.8
スポーツチームやサークルなど地元の仲間との活動ができなくなるから	7	6.0
自宅から通うとお金がかからないから	25	21.4
今住んでいるところに不便を感じないから	12	10.3
今住んでいる地元が好きだから	13	11.1
その他	5	4.3
不明	0	0.0
計	117	100.0

＜進学の希望＞

さて、全員にたいして進学希望を聞いたところ、表17の通り、「大学等への進学する方向で考えている」のは、39.6％であり、また、「進学しか考えていない」という8.4％を加えると48.0％が進学志向である。これは、進学志向の高さを示すとともに、この時点で進学の進路を決めた者とほぼ一致する。その反面、進学を「考えたことがあるが、興味をもてなかった」者が20.9％いる。一方、進学を「家庭の事情で断念した」者も18.7％おり、今日の家庭の経済事情の厳しさをかいま見ることができる。

表17　大学等への進学希望

	人	比率（%）
考えたことは全くない	23	8.4
考えたことはあるが、家庭の事情で断念した	51	18.7
考えたことはあるが、興味をもてなかった	57	20.9
進学する方向で考えている	108	39.6
進学しか考えていない	23	8.4
不明	11	4.0
計	273	100.0

進学を考えている者について進学先を聞くと、表18のように、専門学校が42.0％、４年生大学が36.6％となっており、専門学校への志向が強いが、これは専門高校の特色ともいえる。

表18　希望する進学先

	人	比率（%）
４年制大学	48	36.6
短期大学	27	20.6
専門学校・専修学校	55	42.0
不明	1	0.8
計	131	100.0

進学する理由としては、表19の通りで、「自分が就きたい仕事につくため」という者が74.0％と高い比重を占めており、自分のキャリアとの関係で進学を考えていることがわかる。その一方、「勉強したいから」は15.3％に過ぎず、勉強への意欲には課題が残る。また、「周

囲から勧められるので」という回答は26.0％で、自分で進路をきめる傾向と重なり合う。

表19　進学する理由（複数回答）

	人	比率（%）
周囲（親・先生）から勧められるので	34	26
みんな行っているから	3	2.3
自分が就きたい仕事に就くため	97	74.0
勉強したいから	20	15.3
就職したくないから	14	10.7
その他	9	6.9
不明	0	0.0
回答者数	131	100.0

＜仕事・暮らしに関する意識＞

本調査では、いくつか仕事についての意識を調査しているが、表20は、女性を対象にして結婚と仕事についての考え方を聞いた結果である。ここでは「結婚しても仕事は続け、育児があれば育児休業をとって仕事を続ける」という回答が62.3％と３分の２を占めているが、半面で「育児があれば仕事をやめるつもりである」と回答した者も29.9％、「結婚したら仕事をやめるつもりである」も6.4％いる。結婚や育児があっても仕事継続の意欲は全般には高いものの、３分の１は退職を考えている。

表20　結婚と仕事についての考え方

	人	比率（%）
結婚したら仕事はしないつもりである	13	6.4
結婚しても仕事は続けるが、育児があれば仕事をやめるつもりである	61	29.9
結婚しても仕事は続け、育児があれば育児休業をとって仕事を続ける	127	62.3
不明	3	1.5
計	204	100.0

一方、表21は「地元で生活することを希望しますか」という質問にたいする回答であるが、ここでは「わからない」が57.5％と大きい。これにたいして地元志向は28.6％いるが、なお、具体的にイメージできないことがわかる。

さらに仕事についての考え方を聞いたところ、表22の示すように、「安定した職業生活を送りたい」が74.7％ときわめて高く、安定志向を示している。また、「自分に合わない仕事ならしたくない」51.3％、「人の役に立つ仕事をしたい」49.8％もほぼ半数が選択しており、さらに、「専門的な知識や技術を磨きたい」も31.1％いる。全体として仕事への意識は高いといえる。その一方、「仕事以外の自分の生きがいをもちたい」という回答も43.2％と高く、仕事以外の暮らしへの意識もつよいといえよう。

表21　どこで暮らしたいか

	人	比率（%）
これからもできれば地元でくらしたい	77	28.2
若いときは地元を離れて都会で暮らし、いずれ地元に戻ってきたい	39	14.3
若いときは都会で暮らしてみたいが、その後は分からない	58	21.2
いずれは地元を離れて都会で暮らしたい	24	8.8
どこで暮らすかにはこだわらない	65	23.8
その他	6	2.2
不明	4	1.5
計	273	100.0

表22　仕事についての考え方（複数回答）

	人	比率（%）
あんまりがんばって働かず、のんびりと暮らしたい	35	12.8
あんまりがんばって働かず、のんびりと暮らしたい	13	4.8
自分に合わない仕事ならしたくない	140	51.3
ひとよりも高い収入を得たい	76	27.8
有名になりたい	25	9.2
安定した職業生活を送りたい	204	74.7
人の役に立つ仕事をしたい	136	49.8
専門的な知識や技術を磨きたい	85	31.1
若いうちは一つの仕事にとどまらずいろいろ経験したい	38	13.9
仕事以外の自分の生きがいをもちたい	118	43.2
不明	7	2.6
回答者数	273	100.0

⑵　3年次における進路内定状況と就業意識

＜進路の内定状況＞

3年次の1月の時点で進路の内定状況を聞いたところ、表23の通り、すでに決まっている者が90.9％を占めている。進路未定者が5.3％いるとはいえ、大半の生徒は進路が決まっていることを示している。その進路としては、表24が示すように、就職が39.6％、進学は56.4％で、進学の方が多い。別の言い方をすれば、専門高校でも就職者は4割にすぎない。これを1年前の進路希望と比較すると、当初就職を希望していた者が47.5％、進学希望が51.4％であったので、進学者がやや増える一方、就職する者は少なくなった。1年前には、まだ進路がはっきりしていなかった者も少なくないということはあるものの、就職をめぐる環境が厳しいなかで、進学が就職の代替策となっているとみることができる。進学先では、4年制大学が23.2％、専門学校が22.4％とほぼ半々となっている。

進路の決定時期は、表25の通りで、高校3年の10月以降が66.0％であるが、これは高校新卒者の内定の時期や入学者選抜の時期から考えて当然の結果でもある。しかし、21.2％はすでに9月までに決まっており、内定の早期化をみてとれる。

進路決定にあたって重視した考えは、表26の通りであり、「自分の考え」が76.0％と高い。これは第1回目の調査結果と同じであり、この点では1年間にあまり変化していないことを示している。これにたいして、「親・親戚の考え」は15.6％と低く、この結果からはその影響力が比較的に小さいことがわかる。さらに、「先生の考え」は3.2％に過ぎない。

ところで、少数にとどまるが進路未定者については表27の示す通りで、その71.4％は就職希望であり、就職先が決まっていないことを示している。さらに表28によれば、その50％は「面接に行ったが、決まらなかった」者で、就職活動をしなかったり、就職に関心をもてなかったりした者はごく例外的である。同校の場合は、

表23　卒業後の進路の内定状況

	人	比率（%）
決まった	241	90.9
ほぼ決めたが、最終決定ではない	9	3.4
まだ決まっていない	14	5.3
不明	1	0.4
計	265	100.0

表24　卒業後の進路

	人	比率（%）
就職する	99	39.6
就職することは決めたが、就職先はまだ決まっていない	7	2.8
4年制大学へ進学する	58	23.2
短大へ進学する	27	10.8
専門学校・大学校等へ進学する	56	22.4
進学する予定であるが、進学先はまだ決まっていない	1	0.4
不明	2	0.8
計	250	100.0

表25　進路を決めた時期

	人	比率（%）
高校3年になる前に決まっていた	9	3.6
高校3年の6月までに決まった	13	5.2
高校3年の9月までに決まった	53	21.2
高校3年の10月以降に決まった	165	66.0
不明	10	4.0
計	250	100.0

表26　進路の決定にあたって重視した意見

	人	比率（%）
自分の考え	190	76.0
友人・先輩の考え	2	0.8
親・親戚の考え	39	15.6
兄弟・姉妹の考え	0	0.0
先生の考え	8	3.2
その他	0	0.0
不明	11	4.4
計	250	100.0

表27　進路未決定者の希望する進路

	人	比率（%）
就職を希望	10	71.4
進学を希望	1	7.1
就職するか、進学するか決めかねている	0	0.0
その他	2	14.3
不明	1	7.1
計	14	100.0

就職指導が比較的にうまくいっているとみることができる。

＜就職内定者の就職先＞

就職内定者についてその雇用形態を表29でみてみると、就職する者の86.8％が正社員採用であり、非正社員の採用は2.8％とわずかである。ただ、不明の者が10.4％と比較的多い。雇用形態に関心がないか、あるいは採用側から明確に雇用形態が示されていないのかということになるが、いずれにしても注目したい。

一方、就職する業種としては、表30の通りであって、事務が29.2％とやはり高く、次いでサービス系の仕事が17.9％となっている。店員等の販売・接客系の仕事も13.2％と比較的高い。介護・福祉系の仕事は6.6％で少数にとどまる。２年次の調査では就職希望者を対象にして複数回答で聞いているのにたいして、３年次の調査では内定した職種を聞いているため、両者をただちに比較はできないが、就職した職種は２年次の就職希望職種とほぼ一致している。しかし、前回調査ではみられなかった保全・設計系の仕事や組立て系の仕事など製造業関係に就職した者も少数みられるのは特徴的である。また、販売・接客系の仕事や金融系の仕事、公務などに就職した者は相対的に少なく、希望通りに行かなかった者が多いとみられる。

就職先企業については、表31のように、地元企業が52.8％と過半を占めている。次いで県外に本社のある企業が17.9％となっている。地域での今後の雇用の受け皿といわれる病院、福祉団体などが9.4％を占めているのも特徴的である。他方、公務は2.8％にとどまっている。

表28　就職先未定者の就職活動

	人	比率（%）
就職活動を行ない、面接に行ったが、決まらなかった	5	50.0
求人票などをみたが、したい仕事がなく、面接には行っていない	3	30.0
公務員など行きたいところがあり、就職活動をしなかった	0	0.0
就職活動をする気にならなかった	0	0.0
就職活動ができなかった	0	0.0
その他	2	20.0
不明	0	0.0
計	10	100.0

表29　就職内定者の雇用形態

	人	比率（%）
正社員採用である	92	86.8
正社員採用ではない	3	2.8
分からない	11	10.4
不明	0	0.0
計	106	100.0

表30　就職者の就職する仕事（職種）

	人	比率（%）
工場の保全・設計系の仕事	4	3.8
工場の組立系の仕事	4	3.8
コンピュータ・情報系の仕事	8	7.5
土木・建設系の仕事	0	0.0
自動車整備の仕事	0	0.0
店員等の販売・接客系の仕事	14	13.2
銀行等の金融系の仕事	3	2.8
運転手等の運輸系の仕事	3	2.8
ファッション・デザイン系の仕事	0	0.0
理容・美容系の仕事	0	0.0
介護・福祉系の仕事	7	6.6
サービス系の仕事	19	17.9
営業・セールス系の仕事	2	1.9
公務員	4	3.8
事務の仕事	31	29.2
その他	6	5.7
不明	1	0.9
計	106	100.0

これを本社所在地でみると、表32の通り、大分県が73.6％を占めており、県外企業への就職は少数にとどまる。そのなかでは、東京・関東地方に本社がある企業が14.2％となっている。

一方、就業地については、表33の通り、大分市内が63.2％と３分の２を占めている。これに大分市以外の大分県内の16.0％をふくめると8割は県内での就職であることがわかる。これにたいして県外への就職者は9.3％であり、地元就職者が圧倒的であることがわかる。２年の時点では、必ずしも地元での就職にはこだわらない姿勢を示していたが、結果的には、地元での就職が大多数を占めている。

表31　就職者の就職先

	人	比率（%）
地元の会社	56	52.8
県外に本社のある会社（郵便局などを含む）	19	17.9
自営業（家業）	1	0.9
個人の事務所・商店など	2	1.9
病院、福祉団体など	10	9.4
生協、農協などの協同組合	3	2.8
県庁、市役所など	3	2.8
その他	9	8.5
不明	3	2.8
計	106	100.0

表32　就職先の本社所在地

	人	比率（%）
大分県	78	73.6
福岡県	4	3.8
大分県、福岡県以外の九州	0	0.0
東京都および関東地方	15	14.2
大阪府、京都府、兵庫県	2	1.9
愛知県	1	0.9
その他	2	1.9
不明	4	3.8
計	106	100.0

表33　就職者の就業地域

	人	比率（%）
大分市	67	63.2
大分市以外の大分県内	17	16.0
福岡市	0	0.0
福岡市以外の福岡県	0	0.0
大分県、福岡県以外の九州	1	0.9
東京などの関東地方	8	7.5
大阪府、京都府、兵庫県	1	0.9
愛知県、三重県	0	0.0
勤務の場所は決まっていない	7	6.6
その他	4	3.8
不明	1	0.9
計	106	100.0

＜就職先を決めるうえで重視したこと＞

就職先を決めるにあたって参考にしたのは、表34の示すように、「親・親戚の意見」が48.1％ときわめて高い。しかし、「高校の進路指導」も38.7％とかなり高くなっている。「先生の意見」も34.0％いるので、実際の就職に際しては、学校の進路指導や教員の指導が重要なことを示している。これにたいして、「TV・新聞などの情報」やインターンシップは、少数にとどまっており、外部の情報を受け入れることにたいしては消極的であることがわかる。

表34　就職先を決めるうえで参考になったこと（複数回答）

	人	比率（%）
高校で学んでいる授業	16	15.1
高校の進路指導	41	38.7
インターンシップ	5	4.7
ＴＶ・新聞等の情報	11	10.4
卒業生の就職状況	24	22.6
友人・先輩の意見	20	18.9
親・親戚の意見	51	48.1
兄弟・姉妹の意見	9	8.5
先生の意見	36	34.0
その他	11	10.4
不明	4	3.8
回答者数	106	100.0

これを２年次と比較すると、参考になったこととして「高校の授業」が25.8%から15.1%、「TV・新聞等の情報」が27.6%から10.4%へ減ったのに対して、「高校の進路指導」は、20.2%から38.7%、「先生の意見」は11.0%から34.0%、「親や親戚の意見」が34.4%から48.1%、「卒業生の就職状況」が5.5%から22.6%へ増加しており、親や親戚の意見と並んで、学校の直接的な進路指導が大きな影響力をもっていることをみ

ることができる。

就職で重視したのは、表35の通り、「仕事の内容に興味がもてる」が59.4％と高い。一方、給与は39.6％にとどまり、比較的に少ない。むしろ、勤務地42.5％、「実家から通える」が37.6％と高い比率を示しており、現実には、勤務地を重視する生徒の考え方がわかる。「高校で学んだことが役立ちそう」は22.6％、「仕事を通じて能力の向上すること」が13.2％なども仕事への関心の高さを示している。「会社の将来性」も25.5％と比較的に高いことがわかる。

これを２年次の調査結果と比較すると、就職で重視したのは、「仕事の内容に興味がもてる」が83.9％から59.4％、「仕事を通じて能力の向上」は、20.9％から13.2％へ減少しており、仕事への関心は弱まったことを示している。これにたいして、「実家から通える」が12.5％から35.8％、「勤務地」が28.6％から42.5％と増えており、実際の就職にあたっては勤務地が大きな意味をもったことが注目される。一方、給与は、63.0％から39.6％へ減少した。生徒が現実的な対応をしたとみることができる。

表35　就職にあたって重視したこと（複数回答）

	人	比率（%）
仕事の内容に興味がある	63	59.4
仕事を通じて能力が向上すること	14	13.2
知名度の高さ	19	17.9
ＴＶ・新聞等の情報	4	3.8
寮や体育館・ジム等施設が充実	4	3.8
実家から通える	38	35.8
勤務地	45	42.5
給料	42	39.6
勤務時間が短く、休日も多い	11	10.4
会社の将来性	27	25.5
高校で学んだことが役にたちそう	24	22.6
会社が実力主義	4	3.8
卒業生がいる	12	11.3
友人の高い評価	0	0.0
親・親戚の勧め	14	13.2
兄弟・姉妹の勧め	2	1.9
先生の勧め	13	12.3
その他	5	4.7
不明	5	4.7
回答者数	106	100.0

＜結婚と仕事、就業場所や将来の暮らし、仕事に関する意識＞

結婚と仕事に関する意識は、表36の通り、第１回目と同様の結果が出ており、結婚・育児にかかわらず「仕事を続ける」という者が68.1％と高い比率を示しているが、「育児があれば仕事をやめるもり」という者も26.2％、「結婚したら仕事はしないつもり」も5.8％みられる。

働く場所については、表37のように、「大分県内もしくは大分県に近いところ」という者が23.8％、「家から通えるところがいい」という者が18.5％を占めており、両者をあわせて地元志向は42.3％と高い比率に達する。これにたいして、「全国どこでもいい」という者が22.3％、「東京・東海・関西等の大都市がいい」というのは18.5％である。地元での就業を希望する者の理由については、表38の通り、やはり「知らない土地で生活するのは不安だから」が24.1％、「地元が好きだから」が23.2％、「自宅から通

表36　結婚と仕事についての考え方

	人	比率（%）
結婚したら仕事はしないつもりである	11	5.8
結婚しても仕事は続けるが、育児があれば仕事をやめるつもりである	50	26.2
結婚しても仕事は続け、育児があれば育児休業をとって仕事を続ける	130	68.1
不明	0	0.0
計	191	100.0

表37　働く場所の希望

	人	比率（%）
全国どこでもいい	59	22.3
東京・東海・関西等の都市部がいい	49	18.5
九州・中四国内ならばどこでもいい	36	13.6
大分県内もしくは大分県に近いところがいい	63	23.8
家から通えるところがいい	49	18.5
不明	9	3.4
計	265	100.0

うとお金がかからないから」が21.4％と高い比率を示すにたいして、「家族と離ればなれになるから」が10.7％、「親が地元就職を強く勧めるから」が6.3％と家族的な理由をあげる者は少なく、さらに「地元の仲間との活動ができなくなるから」といった友人関係をあげる者は1.8％に過ぎない。

これらの点を２年次の調査と比べてみると、働く場所については、「九州・中四国であればどこでもよい」が23.1％から13.6％へ、また「大分県内もしくは大分県に近いところ」も31.1％から23.8％へやや減った一方、「家から通えるところがいい」が若干増加している。全体として、地元志向には大きな変化はみられない。また、地元での就業を希望する理由では、「いま住んでいる地元が好きだから」が11.1％から23.2％へ増加した一方で、「知らない土地で生活するのは不安だから」は30.8％から24.1％へ少し減っている。

表38　地元での就業を希望する理由

	人	比率（％）
知らない土地で生活するのは不安だから	27	24.1
家族と離ればなれになるから	12	10.7
親が地元就職を強く勧めるから	7	6.3
スポーツチームやサークルなど地元の仲間との活動ができなくなるから	2	1.8
自宅から通うとお金がかからないから	24	21.4
今住んでいるところに不便を感じないから	9	8.0
今住んでいる地元が好きだから	26	23.2
その他	5	4.5
不明	0	0.0
計	112	100.0

一方、全員を対象にして地元で暮らすことを希望するか、聞いたところ、表39の通り、「これからもできれば地元で暮したい」は27.5％にとどまり、「どこで暮らすかにはこだわらない」とする回答も22.3％にのぼる。また、都会で暮らしたいという意見も少なくない。地元志向の強さがいわれるが、意識の点では住む場所にはあまりこだわっていないようにもみえる。

表39　暮らしたい地域

	人	比率（％）
これからもできれば地元で暮らしたい	73	27.5
若いときは地元を離れて都会で暮らし、いずれ地元に戻ってきたい	31	11.7
若いときは都会で暮らしてみたいが、その後は分からない	41	15.5
いずれは地元を離れて都会で暮らしたい	43	16.2
どこで暮らすかにはこだわらない	59	22.3
その他	7	2.6
不明	11	4.2
計	265	100.0

仕事への考え方という点では、表40にみられる通り、「安定した職業生活を送りたい」という者が75.5％で、きわめて高い比率を示している。同時に「人の役に立つ仕事をしたい」が54.7％、「仕事以外の自分の生きがいをもちたい」という者も53.6％と過半数を占める。「専門的な知識や技術を磨きたい」というキャリア志向も41.1％いる。

これを２年次と比べると、「自分にあわない仕事ならしたくない」が、51.3％から27.9％へと大きく減って、現実に対応しなければならないことを示している。一方、「専門的な知識や技術を磨きたい」が31.1％から41.1％へと増加した。また、「仕事以外の自分の生きがいをもちたい」は、43.2％から53.6％へ増加したことが目立つ。

表40　仕事についての考え方（複数回答）

	人	比率（％）
あんまりがんばって働かず、のんびりと暮らしたい	30	11.3
あんまりがんばって働かず、のんびりと暮らしたい	9	3.4
自分に合わない仕事ならしたくない	74	27.9
ひとよりも高い収入を得たい	78	29.4
有名になりたい	32	12.1
安定した職業生活を送りたい	200	75.5
人の役に立つ仕事をしたい	145	54.7
専門的な知識や技術を磨きたい	109	41.1
若いうちは一つの仕事にとどまらずいろいろ経験したい	52	19.6
仕事以外の自分の生きがいをもちたい	142	53.6
不明	6	2.3
回答者数	265	100.0

3．Ｊ工業高校生の進路希望と実際の就業先

⑴　２年次における進路希望と就業意識

＜進路の希望＞

２年生の３学期の時点で卒業後の進路を決めているかを聞いたのにたいして、表41の通り、「ほぼ決めている」が26.8％、「だいたい進路を決めている」のは50.5％で、あわせて78.3％は卒業後の進路を決めている。「決めていない」のは21.6％とむしろ少ない。進路の決定時期は表42の通りであり、入学以前という者が43.5％と半数近くいるが、高校２年になって決めた者も35.4％おり、３分の１の生徒は、高校で勉強する中で進路を決めていることがわかる。

表41　卒業後の進路を決めているか

	人	比率（%）
ほぼ決めている	51	26.8
だいたいは決めている	96	50.5
まだ決めていない	41	21.6
全然考えていない	2	1.1
不明	0	0.0
計	190	100.0

表42　希望進路を決めた時期

	人	比率（%）
高校に入学する前に	64	43.5
高校１年の時	29	19.7
高校２年の時	52	35.4
不明	2	1.4
計	147	100.0

希望する進路としては、表43の通り、就職志望者が69.4％とかなり高く、これに「今はとりあえず就職」の15.6％を加えると、85.0％が就職志向である。これにたいし進学志向は15.0％にすぎない。就職希望が多いのは、同じ専門高校でも商業高校とは際だった違いであり、対照的である。

進路希望を決めるに当たって重視したのは、表44で示されるように、やはり「自分の考え」が72.8％と高い。「親や親戚の考え」も15.0％みられるが、「先生の考え」と回答したのは3.4％にすぎず、商業高校と比較しても少ない。

表43　希望する進路

	人	比率（%）
是非、就職したい	102	69.4
進学の思いもあるが、今はとりあえず就職するつもりである	23	15.6
是非、大学・短大・専門学校等へ進学したい	11	7.5
就職も考えているが、今はとりあえず進学するつもりである	11	7.5
不明	0	0.0
計	147	100.0

表44　希望進路を決めるうえで重視した意見

	人	比率（%）
自分の考え	107	72.8
友人・先輩の考え	12	8.2
親・親戚の考え	22	15.0
兄弟・姉妹の考え	0	0.0
先生の考え	5	3.4
その他	1	0.7
不明	0	0.0
計	147	100.0

＜希望する職種＞

希望する進路が決まっていても、就きたい仕事となると状況は異なる。表45によれば、希望進路が決まっている者のうち、この時点で将来希望する仕事を「はっきりと決めている」のは11.6％で、「おおよそ決めている」の38.9％を加えても、50.5％と半分にとどまる。一方、「あまり考えていない」「まったく考えていな

表45　将来就きたい仕事が決まっているか

	人	比率（%）
はっきりと決めている	22	11.6
おおよそ決めている	74	38.9
あまり考えていない	79	41.6
全く考えていない	10	5.3
不明	5	2.6
計	190	100.0

い」をあわせると48.1％と約半数にのぼる。商業科と比較すると、決まっていない者がやや多いといえる。工業高校は専門性が高いと考えられるが、将来の仕事について具体的なイメージをもっていない者も多いと考えられる。

就きたい仕事が決まっている者に希望する仕事を聞いたところ、表46の通り、「工場の保全、設計系の仕事」が32.3％、「工場の組立て系の仕事」が21.9％で、両者をあわせて製造業の生産現場の仕事が半数以上を占める。また、「自動車整備の仕事」25.0％、「コンピュータ・情報系の仕事」は13.5％、「土木建設系の仕事」が14.6％である。いずれにしても、工業高校の教育内容に呼応し、学んだことを生かす仕事を志向していることがわかる。ただ、公務員希望が14.6％いるのは、仕事の中味がわからないものの注目される。

希望する仕事を決める上で参考になったことは、表47の示すように、「親や親戚の意見」が41.7％とかなり高い比率を示しており、表44とは大きく異なっていることを示している。進路は親ではなく、自分で決めているが、具体的な職種の選択については、親の意見が大きく影響していることがわかる。高校生では職種について具体的なイメージをもてないためとも考えられる。一方、それ以外では、インターンシップ29.2％、高校での授業24.0％、卒業生の就職状況22.9％となっており、高校で学んだことが職種に結びついていることも示している。

表46　希望する仕事（職種）（複数回答）

	人	比率（%）
工場の保全・設計系の仕事	31	32.3
工場の組立系の仕事	21	21.9
コンピュータ・情報系の仕事	13	13.5
土木・建設系の仕事	14	14.6
自動車整備の仕事	24	25
店員等の販売・接客系の仕事	4	4.2
銀行等の金融系の仕事	0	0.0
運転手等の運輸系の仕事	1	1.0
ファッション・デザイン系の仕事	4	4.2
理容・美容系の仕事	6	6.3
介護・福祉系の仕事	3	3.1
サービス系の仕事	2	2.1
営業・セールス系の仕事	0	0.0
公務員	14	14.6
事務の仕事	2	2.1
その他	10	10.4
不明	0	0.0
回答者数	96	100.0

表47　希望進路を決めるうえで参考にしたこと（複数回答）

	人	比率（%）
高校で学んでいる授業	23	24.0
高校の進路指導	18	18.8
インターンシップ	28	29.2
ＴＶ・新聞等の情報	12	12.5
卒業生の就職状況	22	22.9
友人・先輩の意見	17	17.7
親・親戚の意見	40	41.7
兄弟・姉妹の意見	6	6.3
先生の意見	17	17.7
その他	10	10.4
不明	3	3.1
回答者数	96	100.0

＜就職にあたって重視すること＞

一方、全員を対象に就職にあたって重視することを聞いたのにたいして、表48の通り、「仕事の内容に興味がある」が70.5％、「給料」68.9％となっており、給与の比重が相対的に高いものの、基本的には商業高校と同様の傾向である。また、「会社の将来性」は33.7％、「仕事を通じた能力向上」が24.2％であることも堅実さを示している。反面、「知名度の高さ」は25.3％で商業高校と比べてと相対的に高い。注目されるのは、勤務地をあげる者が38.9％、「実家から通えること」が20.0％で、商業科と比べても高いことである。

しかし、働く場所としては、表49の通り、「大分県内もしくは大分県に近いところ」を希望する者が32.1％と高く、「家から通えるところ」も13.7％と高いが、他方で「九州・中四国ならどこでも」という者が22.1％、「東京・東海・関西などの都市部がいい」という者も12.1％、

「全国どこでもいい」も16.8％と、勤務場所は散らばりが大きい。

地元での就業を希望する者にその理由を聞いたところ、表50の通り、「知らない土地で生活するのは不安だから」が26.4％の一方で、「地元が好きだから」が17.2％、「地元で不便を感じない」が11.5％となっている。また、「自宅から通うとお金がかからない」が21.8％と相対的に高い比率を示している。一方、「地元の仲間との活動ができなくなるから」という回答のように地域のつながりを意識しているのは6.9％ときわめて少数にとどまる。

表48　就職するうえで重視すること（複数回答）

	人	比率（%）
仕事の内容に興味がある	134	70.5
仕事を通じて能力が向上すること	46	24.2
知名度の高さ	48	25.3
ＴＶ・新聞等の情報	22	11.6
寮や体育館・ジム等施設が充実	35	18.4
実家から通える	38	20.0
勤務地	74	38.9
給料	131	68.9
勤務時間が短く、休日も多い	41	21.6
会社の将来性	64	33.7
高校で学んだことが役にたちそう	33	17.4
会社が実力主義	12	6.3
卒業生がいる	16	8.4
友人の高い評価	18	9.5
親・親戚の勧め	18	9.5
兄弟・姉妹の勧め	4	2.1
先生の勧め	16	8.4
その他	4	2.1
不明	8	4.2
回答者数	190	100.0

表49　どこで働くことを希望しているか

	人	比率（%）
全国どこでもいい	32	16.8
東京・東海・関西等の都市部がいい	23	12.1
九州・中四国内ならばどこでもいい	42	22.1
大分県内もしくは大分県に近いところがいい	61	32.1
家から通えるところがいい	26	13.7
不明	6	3.2
計	190	100.0

表50　地元での就業を希望する理由

	人	比率（%）
知らない土地で生活するのは不安だから	23	26.4
家族と離ればなれになるから	4	4.6
親が地元就職を強く勧めるから	5	5.7
スポーツチームやサークルなど地元の仲間との活動ができなくなるから	6	6.9
自宅から通うとお金がかからないから	19	21.8
今住んでいるところに不便を感じないから	10	11.5
今住んでいる地元が好きだから	15	17.2
その他	3	3.4
不明	2	2.3
計	87	100.0

＜進学の希望＞

さて、全員に進学希望を聞いたところ、表51の通り、「進学を考えたことがない」者が39.5％、「興味をもてない」が30.5％と比較的高く、進学への関心は低いといえる。ただ、「家庭の事情で断念した」者も12.6％みられる。

一方、進学希望は14.2％と少数であるが、彼らの希望する進学先は表52のように、59.3％が専門学校であり、四年制大学の希望者は29.6％に過ぎない。進学する理由としては、表53の示すように、「自分が就きたい仕事につくため」というキャリア志向が81.5％と大半を占める。一方、「勉強したいから」は18.5％にとどまる。「周囲から勧められるので」という者も25.9％である。

表51　大学等への進学希望

	人	比率（%）
考えたことは全くない	75	39.5
考えたことはあるが、家庭の事情で断念した	24	12.6
考えたことはあるが、興味をもてなかった	58	30.5
進学する方向で考えている	24	12.6
進学しか考えていない	3	1.6
不明	6	3.2
計	190	100.0

表52　希望する進学先

	人	比率（%）
4年制大学	8	29.6
短期大学	2	7.4
専門学校・専修学校	16	59.3
不明	1	3.7
計	27	100.0

＜仕事・暮らしに関する意識＞

女子学生を対象にした結婚と仕事についての質問は、調査対象に男子が多いため、表54の通り、回答数自体が少ないが、工業高校の女子学生の考え方はうかがうことができる。それによれば、結婚・育児があっても「仕事を続ける」という回答は55.0%となっているが、他方、「育児があれば仕事をやめる」者も35.0%おり、商業高校と比べても高いことが特徴的である。

一方、地元で暮らすことを希望するかを聞いた質問にたいしては、表55のように、「できれば地元で暮らしたい」とする者が30.0%、「若いときは（中略）都会で暮らし、いずれは地元に戻る」という者は16.3%で、地元への志向はあまりつよいとはいえない。一方、「どこで暮らすにはこだわらない」が23.2%、「いずれ地元を離れて都会で暮らしたい」が11.1%、「若いときは都会で暮らしてみたいが、その後はわからない」が18.4%で、4割以上は地元への志向があまりみられない。これだけからみると、この時点では、生活する場所についてはとくにこだわりがないようにみえる。

また、仕事についての考え方については、表56の通り、「安定した職業人生を送りたい」と回答した者が74.7%と高い一方、「若いうちはひとつの仕事にとどまらず、いろいろ経験したい」という回答は18.4%にすぎず、安定志向がかなり明確になっている。他方、「自分にあわない仕事ならしたくない」が52.1%と仕事を選択する姿もみえる。これらは商業高校とも一致している。同時に、「人よりも高い収入を得たい」という者も45.3%で、所得への関心は高い。「人の役にたつ仕事をしたい」という者も

表53　進学する理由（複数回答）

	人	比率（%）
周囲(親･先生)から勧められるので	7	25.9
みんな行っているから	0	0.0
自分が就きたい仕事に就くため	22	81.5
勉強したいから	5	18.5
就職したくないから	1	3.7
その他	0	0.0
不明	1	3.7
回答者数	27	100.0

表54　結婚と仕事についての考え方

	人	比率（%）
結婚したら仕事はしないつもりである	0	0.0
結婚しても仕事は続けるが、育児があれば仕事をやめるつもりである	7	35.0
結婚しても仕事は続け、育児があれば育児休業をとって仕事を続ける	11	55.0
不明	2	10.0
計	20	100.0

表55　どこで暮らしたいか

	人	比率（%）
これからもできれば地元でくらしたい	57	30.0
若いときは地元を離れて都会で暮らし、いずれ地元に戻ってきたい	31	16.3
若いときは都会で暮らしてみたいが、その後は分からない	35	18.4
いずれは地元を離れて都会で暮らしたい	21	11.1
どこで暮らすかにはこだわらない	44	23.2
その他	0	0.0
不明	2	1.1
計	190	100.0

表56　仕事についての考え方（複数回答）

	人	比率（%）
あんまりがんばって働かず、のんびりと暮らしたい	28	14.7
あんまりがんばって働かず、のんびりと暮らしたい	25	13.2
自分に合わない仕事ならしたくない	99	52.1
ひとよりも高い収入を得たい	86	45.3
有名になりたい	21	11.1
安定した職業生活を送りたい	142	74.7
人の役に立つ仕事をしたい	68	35.8
専門的な知識や技術を磨きたい	49	25.8
若いうちは一つの仕事にとどまらずいろいろ経験したい	35	18.4
仕事以外の自分の生きがいをもちたい	66	34.7
不明	2	1.1
回答者数	190	100.0

35.8％と比較的に高く、「専門的な知識・技術を磨きたい」者も25.8％で、仕事への意識は全体的には高いといえる。一方、「あまりがんばって働かず、のんびりと暮らしたい」は14.7％と少数にとどまる。同時に「仕事以外の自分の生き甲斐をもちたい」という回答は34.7％と高い。

⑵　３年次における進路内定状況と就業意識

＜進路の内定状況＞

まず、３年の１月時点での進路の内定状況は表57の通りであり、「決まった」というのが97.3％ときわめて高く、進路未定者は1.6％にすぎない。進路指導がきちんと行なわれていることをうかがい知ることができる。その進路は、表58の通り、就職が85.8％ときわめて高く、進学は13.6％に過ぎない。工業高校の場合には、商業高校と異なって、卒業後の進路は就職が中心であることがわかる。これを２年次の進路希望と比較してみると、２年で就職を希望していた学生は85.0%、進学希望は15.0%であったのにたいして、３年で就職が内定した者が85.8%、進学希望（未定者を含む）が13.6%であるので、２年次の進路希望と３年次の進路はほとんど変化がないことがわかる。

進路の決定時期では、表59の通り、高校３年の10月以降が36.1％と高いものの、９月までに決まっていた者も39.3％おり、むしろこちらの方が多い。また、６月までに決まっていた者が10.9％、３年になる以前に決まっていたのが9.8％で、商業高校と比べてかなり早期に進路が決まっているということができる。

進路の決定に際して重視したのは、表60でみられる通り、商業高校と同様に「自分の考え」が72.1％と高い。それでも「親や親戚の考え」が14.2％いるが、「先生の考え」を重視したのは4.9％に過ぎない。２年次の時点で進路決定上重視した意見は、「自分の考え」が72.8%、「親・親戚の意見」が15.0%であったので、基本的には変わっていない。

一方、進路未定者については３名と限られているので、その状況を分析する意味があまりないが、表61の通り、就職希望と進学希望の両方がある。

表57　卒業後の進路の内定状況

	人	比率（%）
決まった	182	97.3
ほぼ決めたが、最終決定ではない	1	0.5
まだ決まっていない	3	1.6
不明	1	0.5
計	187	100.0

表58　卒業後の進路

	人	比率（%）
就職する	157	85.8
就職することは決めたが、就職先はまだ決まっていない	0	0.0
4年制大学へ進学する	7	3.8
短大へ進学する	0	0.0
専門学校・大学校等へ進学する	18	9.8
進学する予定であるが、進学先はまだ決まっていない	0	0.0
不明	1	0.5
計	183	100.0

表59　進路を決めた時期

	人	比率（%）
高校3年になる前に決まっていた	18	9.8
高校3年の6月までに決まった	20	10.9
高校3年の9月までに決まった	72	39.3
高校3年の10月以降に決まった	66	36.1
不明	7	3.8
計	183	100.0

表60　進路の決定にあたって重視した意見

	人	比率（%）
自分の考え	132	72.1
友人・先輩の考え	3	1.6
親・親戚の考え	26	14.2
兄弟・姉妹の考え	1	0.5
先生の考え	9	4.9
その他	1	0.5
不明	11	6.0
計	183	100.0

＜就職内定者の就業先＞

就職が内定した者の雇用形態は、表62のように、正社員が96.2％と大半を占めるが、正社員以外もわずかにいる。就職予定の職種は表63の通りで、「工場の組立て系の仕事」が38.2％、「工場の保全・設計系の仕事」が22.3％と高く、工業高校が製造業の生産の仕事への人材を送り出すという点で大きな役割を果たしていることがわかる。そうしたなかでも、就職する職種は、保全・設計の仕事よりも組立ての仕事が中心である。このほか、「土木・建設系の仕事」が9.6％、「自動車整備の仕事」が6.4％いるのも工業高校の特徴であろう。なお、「コンピュータ・情報系の仕事」が1.9％で、きわめて少ないが、これは学科編成が反映していると考えられる。他方、就職先としては製造業の生産現場と建設業以外はほとんどみられない。これは同校の進路指導が反映したものといえよう。

就職が内定した者の職種を２年次の希望職種と比較してみると、２年次には組立て系の仕事が21.9%、保全・設計系の仕事が32.3%、自動車整備が25.0%、土木・建設が14.6%だったのにたいして、内定した職種は、組立て系が38.2%、保全・設計系が22.3%、自動車整備が6.4%、土木・建設が9.6%であるので、組立てがもっとも多く、保全・設計と逆転していることがわかる。また、自動車整備も実際につくものは少ない。公務員希望が２年次には14.6%いたのにたいして、３年次では1.3%に過ぎない。やはり希望と現実には若干のズレがあることがわかる。

就職先としては、表64の通り、やはり「地元の会社」が57.3％と高いが、県外に本社のある会社も35.0％と小さくない比率を示している。これを就職先の本社所在地でみると、表65の通り、大分県が36.3％ともっとも多く、地元の会社へ就職ということ重なるが、二番目に多いのは「東京および関東地方」20.4%であり、全国企業に就職している者の比重の大きさをみることができる。そのほかでは、福岡県が19.1％であるが、大阪・近畿は8.3%、愛知県は4.5％と

表61　進路未決定者の希望する進路

	人	比率（%）
就職を希望	1	33.3
進学を希望	1	33.3
就職するか、進学するか決めかねている	0	0.0
その他	0	0.0
不明	1	33.3
計	3	100.0

表62　就職内定者の雇用形態

	人	比率（%）
正社員採用である	151	96.2
正社員採用ではない	2	1.3
分からない	2	1.3
不明	2	1.3
計	157	100.0

表63　就職者の就職する仕事（職種）

	人	比率（%）
工場の保全・設計系の仕事	35	22.3
工場の組立系の仕事	60	38.2
コンピュータ・情報系の仕事	3	1.9
土木・建設系の仕事	15	9.6
自動車整備の仕事	10	6.4
店員等の販売・接客系の仕事	3	1.9
銀行等の金融系の仕事	0	0.0
運転手等の運輸系の仕事	1	0.6
ファッション・デザイン系の仕事	0	0.0
理容・美容系の仕事	0	0.0
介護・福祉系の仕事	0	0.0
サービス系の仕事	2	1.3
営業・セールス系の仕事	0	0.0
公務員	2	1.3
事務の仕事	0	0.0
その他	23	14.6
不明	3	1.9
計	157	100.0

表64　就職者の就職先

	人	比率（%）
地元の会社	90	57.3
県外に本社のある会社（郵便局などを含む）	55	35.0
自営業（家業）	2	1.3
個人の事務所・商店など	0	0.0
病院、福祉団体など	1	0.6
生協、農協などの協同組合	0	0.0
県庁、市役所など	0	0.0
その他	6	3.8
不明	3	1.9
計	157	100.0

東京に比べて低いのも特徴的である。これは、高校の進路指導やこれまでの先輩の就職先が影響していると考えられる。

さらに就業地でみると、表66で示すように、中津市・宇佐市が33.8％でもっとも高く、次いで同市以外の大分県22.3％を占めている。両者をあわせると56.1％に達し、さきの質問に対する「地元の会社」では県内就職が中心であることがわかる。また、福岡市が5.1％にたいして、同市以外の福岡県が15.3％と高いが、その多くは中津市に近接する豊前市から北九州市にかけての地域で就業すると考えられ、これも「地元」とみれば、実際には「地元」で就業する者がかなり多いことがわかる。また、本社所在地としては東京および関東地方が20.4％いるのにたいし、就業地では「東京などの関東地方」は5.1％に過ぎず、彼らの多くが、東京などに本社のある全国企業の中津工場・事業所などで勤務することがわかる。その点では、地元に全国企業が立地していることが、就職の面で大きな意義をもっているともいえる。

表65　就職先の本社所在地

	人	比率（%）
大分県	57	36.3
福岡県	30	19.1
大分県、福岡県以外の九州	0	0.0
東京都および関東地方	32	20.4
大阪府、京都府、兵庫県	13	8.3
愛知県	7	4.5
その他	13	8.3
不明	5	3.2
計	157	100.0

表66　就職者の就業地域

	人	比率（%）
中津市・宇佐市	53	33.8
中津市・宇佐市以外の大分県内	35	22.3
福岡市	8	5.1
福岡市以外の福岡県	24	15.3
大分県、福岡県以外の九州	1	0.6
東京などの関東地方	8	5.1
大阪府、京都府、兵庫県	2	1.3
愛知県、三重県	9	5.7
勤務の場所は決まっていない	6	3.8
その他	8	5.1
不明	3	1.9
計	157	100.0

＜就職先を決めるうえで重視したこと＞

就職先を決めるにあたって参考になったのは、表67の通り、「高校の進路指導」が43.3％、「先生の意見」も42.7％であり、高校の進路指導がつよい影響力をもったことがわかる。これにくわえて「卒業生の就職状況」26.1％、「高校で学んでいる授業」の23.6％などをみると、高校が就職先の選択に大きく影響していることがわかる。一方、「親や親戚の意見」も35.7％、「友人・先輩の意見」22.3％と、少なくない影響力をもっている。女子が多い商業高校と比べると、学校や先生の意見をより参考にして就職先を考えていることがわかる。

表67　就職先を決めるうえで参考になったこと（複数回答）

	人	比率（%）
高校で学んでいる授業	37	23.6
高校の進路指導	68	43.3
インターンシップ	23	14.6
ＴＶ・新聞等の情報	14	8.9
卒業生の就職状況	41	26.1
友人・先輩の意見	35	22.3
親・親戚の意見	56	35.7
兄弟・姉妹の意見	4	2.5
先生の意見	67	42.7
その他	16	10.2
不明	5	3.2
回答者数	157	100.0

これを２年次と比べると、「高校で学んでいる授業」は２年間に大きな違いはないが、「進路指導」は、18.8％から43.3％へ大きく増えた。また、「先生の意見」も10.4％から42.7％へ増加している。逆に「親・親戚の意見」は41.7％から25.7％へやや減少した。「卒業生の就職状況」は22.9％から26.1％へやや増加している。

一方、就職するうえで重視したのは、表68の通り、「仕事の内容に興味がある」が58.6％と

過半数を超えている。また、仕事とともに「給料」の41.4%、「勤務地」40.1%、「会社の将来性」38.2%などが相対的に高く、これらを重視していることがわかる。一方、仕事内容も重視しており、「仕事を通じて能力が向上すること」という回答が22.9%、「高校で学んだことが役立ちそう」が38.2%と比較的に高い比率を示している。また、「知名度の高さ」も29.9%と高いのは特徴的であり、商業高校とは異なる。さらに「先生の意見」の16.6%、「親や親戚の意見」14.6%、「TV・新聞等の情報」14.0%など情報源についても一定程度重視している。

これを２年次と比較してみると、「仕事内容に興味がある」が70.5%から58.6%へ、「給与」は、68.9%から41.4%へ減少した。「勤務時間・休日」も21.6%から11.5%へ減少しており、希望通りにいかない現実を示している。これにたいして、「実家から通える」は20.0%から30.6%へ、「卒業生がいる」は、8.4%が16.6%へやや増加した。「先生の意見」も8.4%から16.6%へ増加している。

表68　就職にあたって重視したこと（複数回答）

	人	比率（%）
仕事の内容に興味がある	92	58.6
仕事を通じて能力が向上すること	36	22.9
知名度の高さ	47	29.9
ＴＶ・新聞等の情報	22	14.0
寮や体育館・ジム等施設が充実	14	8.9
実家から通える	48	30.6
勤務地	63	40.1
給料	65	41.4
勤務時間が短く、休日も多い	18	11.5
会社の将来性	60	38.2
高校で学んだことが役にたちそう	27	17.2
会社が実力主義	14	8.9
卒業生がいる	26	16.6
友人の高い評価	8	5.1
親・親戚の勧め	23	14.6
兄弟・姉妹の勧め	4	2.5
先生の勧め	26	16.6
その他	7	4.5
不明	3	1.9
回答者数	157	100.0

＜就業場所や将来の暮らし、仕事に関する意識＞

希望する働く場所については、表69の通り、「大分県内もしくは大分県に近いところ」が23.5%、「家から通えるところがいい」は17.6%で、両者をあわせると41.1%が地元を希望している。これにたいして、「全国どこでもいい」という回答は27.3%で、地元志向の方が強いことがわかるが、これは商業高校と同様である。これにたいして「東京・東海・関西等の都市部がいい」という回答は9.6%にすぎない。

このうち、地元で働くことを希望している者にたいして、その理由を聞いたところ、表70のように、「自宅から通うとお金がかからないから」が24.7%、「知らない土地で生活するのは不安だから」が23.4%、「地元が好きだから」が20.8%であり、商業高校の場合と大きな違いはない。

表69　働く場所の希望

	人	比率（%）
全国どこでもいい	51	27.3
東京・東海・関西等の都市部がいい	18	9.6
九州・中四国内ならばどこでもいい	28	15.0
大分県内もしくは大分県に近いところがいい	44	23.5
家から通えるところがいい	33	17.6
不明	13	7.0
計	187	100.0

働く場所については、２年次の調査結果と比べると、「全国どこでもいい」が16.8%から27.3%へ増加したのにたいして、「大分県内およびその周辺」が32.1%から23.5%へ、「九州・中四国」も22.1%から15.0%へ減少した。地元での就業を希望する学生に、理由を聞いたものでは大きな変化はみられない。

将来地元で暮らしたいか、地元を離れたいかを聞いたところ、表71の通り、「これからもで

きれば地元で暮らしたい」が34.8％、「若いときは地元を離れて暮らし、いずれ地元に戻って暮らしたい」が17.1％にたいして、「どこで暮らすかにはこだわらない」は20.3％で、やはり地元志向が強い。また、「いずれ地元を離れて都会で暮らしたい」は8.0％で、都会志向は全体的には弱いということができる。

就職や仕事への考え方では、表72の通り、やはり「安定した職業生活を送りたい」が67.4％ときわめて高いのが特徴的であるが、「人の役に立つ仕事をしたい」も42.8％、「専門的知識や技術を磨きたい」とする者も36.9％と相対的に高い比重を占めしている。同時に、「人よりも高い収入を得たい」は40.6％で、１年前より増加している。また、「一つの仕事にとどまらずいろいろと経験したい」も21.4％へかなり増加した。一方、「仕事以外の自分の生き甲斐をもちたい」は39.0％と高いが、「あまりがんばって働かずのんびり暮らしたい」という者は、15.5％にとどまっている。

就職・仕事への考え方について、２年次の調査結果と比較すると、「自分にあわない仕事はしたくない」が52.1％から31.0％へ大きく減少したが、「安定した職業人生を送りたい」も、74.7％から67.4％へやや減少した。これにたいして、「専門的な技術や知識を磨きたい」は、25.8％から36.9％へと増加した。また、「人の役立つ仕事をしたい」が、35.8％から42.8％へやや増加したことは興味深い。そのほかには大きな変化はみられず、２年次と３年次では考え方に大きな変化が生じていないことがわかる。

むすび

本稿では、大分県内の二つの専門高校生について、どのように就職先を決めたのか、また、彼らがいかなる就業意識をもっているかを２年次と３年次の二度にわたって調査した結果を分析した。ここでは、専門高校生の就職先の地域と産業・職業という点から、彼らの就業行動の特徴を整理しておきたい。

表70　地元での就業を希望する理由

	人	比率（%）
知らない土地で生活するのは不安だから	18	23.4
家族と離ればなれになるから	1	1.3
親が地元就職を強く勧めるから	2	2.6
スポーツチームやサークルなど地元の仲間との活動ができなくなるから	5	6.5
自宅から通うとお金がかからないから	19	24.7
今住んでいるところに不便を感じないから	6	7.8
今住んでいる地元が好きだから	16	20.8
その他	9	11.7
不明	1	1.3
計	77	100.0

表71　暮らしたい地域

	人	比率（%）
これからもできれば地元で暮らしたい	65	34.8
若いときは地元を離れて都会で暮らし、いずれ地元に戻ってきたい	32	17.1
若いときは都会で暮らしてみたいが、その後は分からない	19	10.2
いずれは地元を離れて都会で暮らしたい	15	8.0
どこで暮らすかにはこだわらない	38	20.3
その他	7	3.7
不明	11	5.9
計	187	100.0

表72　仕事についての考え方（複数回答）

	人	比率（%）
あんまりがんばって働かず、のんびりと暮らしたい	29	15.5
あんまりがんばって働かず、のんびりと暮らしたい	27	14.4
自分に合わない仕事ならしたくない	58	31.0
ひとよりも高い収入を得たい	76	40.6
有名になりたい	21	11.2
安定した職業生活を送りたい	126	67.4
人の役に立つ仕事をしたい	80	42.8
専門的な知識や技術を磨きたい	69	36.9
若いうちは一つの仕事にとどまらずいろいろ経験したい	40	21.4
仕事以外の自分の生きがいをもちたい	73	39.0
不明	10	5.3
回答者数	187	100.0

まず、専門高校生の場合、高校を選択した時点で卒業後は就職を希望するケースが多く、高校の選択と卒業後の進路はかなり密接な関係がある。このため、進路は早くに決まっていることが多いが、商業高校の場合は、最終的には進学をする者の方が多いのにたいして、工業高校では、当初希望の通り、就職する者が圧倒的である。ともに専門高校とはいえ、専門教育の違いが進路に大きく影響しており、工業高校では製造業を支える基幹的な人材の育成という役割が果たされているということができる。

同時に、今日高校生の就職難がいわれているにもかかわらず、本調査の対象者は、ほとんどが３年次の１月時点で進路が決まっており、しかも就職する者は正社員が圧倒的な比率を占めるなど、就職はかなり順調であるとみなすことができる。その点では、本調査からは今日の若者の深刻な雇用問題はみえてこない。

そうしたなかで就職が決まった者の就職先をみると、東京などに本社があるケースを含めて、地元への就職者の比重がかなり大きい。商業高校では79.2％、工業高校でも71.4％が大分県内やその隣接地など、広い意味で「地元」への就職とみなすことができる。これにたいして東京などの大都市に就職する者は少数にとどまり、高校卒業時の全国的な移動は少ない。同時に、「地元」の中心は、高校の所在している市町村とその周辺部であって、生活圏といえるほどの広がりである。彼らの労働市場の地理的な広がりが狭く限定されていることがわかる。

また、就職先を決めるに際して重視されているのは、仕事内容や会社の将来性、給与などともに、勤務する地域がある。商業高校の場合、42.5％が勤務地、37.6％が自宅通勤を重視しており、工業高校でも、40.1％が勤務地、30.6％が自宅通勤を重視したと回答している。しかも、２年次よりも３年次の方が、この比率が高まっており、地元就職した者の多くが就業地を意識して就職を決めたことがみてとれる。もっとも、彼らに就業や生活への意識を聞いた質問では、働く場所として地元を希望する比率は高いものの、一定数は「全国どこでもかまわない」や「東京などの大都市」と回答しており、実際の就業先と若干のズレがある。このことから、就業の場所として一般的に問われれば、特に地元にこだわるわけではないが、実際の就業行動としては地元を選択しているとみることができる。このことは、むしろ彼らの労働市場圏が限定されていることを示しているといえよう。

一方、就職先の産業・職業については、当然、商業高校と工業高校では異なっており、前者は、事務、サービス業、販売が中心である。ここにはあまり地域性は反映していない。これにたいして工業高校の場合は、製造業の比率がきわめて高く、そのなかでも組立てと保全・設計が中心ということができる。これは、工業高校の特性がよく反映された結果であると同時に、高校の進路指導の徹底をみることができる。また、工業高校の就職者について産業・職業と就業地域をあわせてみると、地元で製造業に就業していることになり、地域の産業構造が反映しているとともに、地域産業を支える人材の供給源としての役割を認めることができる。

就職先の決定にあたって参考になったこととしては、両方の高校ともに親などの意見と高校の進路指導、そして、教員の意見が大きな比率を占めており、これらの重要性が明らかになる。とくに、高校生の就職では、従来から高校での進路指導の役割の大きさは認識されており、両高校では、進路指導が良好な就職につながっているということもできる。

この調査から、高校生の就業行動として地元での就職が重視されており、「地域」が就業のうえで重要な意味をもつことが明らかになった。それはよくいわれる「地元意識」の強さでもある。これは、専門高校が地域の求める人材育成という点で重要な役割を果たしていることを

示しているが、反面では、彼らの地元への就業希望を満たし、安定したキャリアを展望するには、地域の産業や労働市場の環境整備が重要なことを意味する。その点では、今回の調査では問題になっていないものの、雇用環境が厳しい地域では、若者の就職やキャリアの形成は困難になり、地域間の経済格差が広がる要因ともなるであろう。こうしたことを考えれば、地元での就職へ志向が強い若者の就業行動に対応した地域雇用政策や地域産業政策が求められる。

【参考文献】

浅川和幸（2008）「高校生の就業意識と自己意識:時間的展望の異なる二つの類型について」北海道大学大学院教育学研究院紀要、第105号

浅川和幸（2009）「高校生の就職観と進路指導」、日本労働社会学会年報第19号、東信堂

阿部誠（2009）「若者の就業行動の地域的特性」地域と経済第２号

阿部誠・石井まこと・中澤高志（2009）「地域労働市場における高卒者の職業経験と専門高校の役割」地理科学、第64巻第１号

小杉礼子（2010）『若者と初期キャリア』勁草書房

労働政策研究・研修機構（2009）『地方の若者の就業行動と移行過程』労働政策研究報告書№108

労働政策研究・研修機構（2012）『大都市の若者の就業行動と意識の展開―「第３回若者のワークスタイル調査」から―』労働政策研究報告書№148